「教育臨床総合研究25　2026研究」

令和７年度の基礎体験領域の取り組み

A Report on the Approaches in the Educational Support Fieldwork Area in 2025

村尾美幸*　高塚淳*
Miyuki MURAO　Atushi TAKATSUKA
上代裕一*　飯島仁*
Yuichi JODAI　Hitoshi IJIMA
橘弘章*　長岡美沙*
Hiroaki TACHIBANA　Misa NAGAOKA
原丈貴**
Taketaka HARA

要　旨

2024年度（Ｒ６年度）入学生より，新たな1000時間体験学修のカリキュラムがスタートした．そのため新カリキュラムと旧カリキュラムを同時並行で運用する必要があり，各学年のカリキュラムに応じた指導が求められる状況となっている．１，２年生の積極的な体験活動への参加がみられるが，経験年数が浅いことや，多様な子どもたちと向かい合うことから，子どもとの接し方に悩む学生の姿もみられ，教育支援センターのサポートがこれまで以上に重要になっている．学生が安心して活動に参加できるよう，受け入れ先と大学側で，指導体制や活動環境の共通理解が保たれる新たな手続きの方法についても検討を進めた．

Ｒ７年度は昨年度のプログラム内容を大きく変更することなく各種イベントを計画したが，単に前年度と同じことをそのまま繰り返すのではなく，前年度の課題や反省点を振り返りながらプログラムの構築を図った．基礎体験活動の教育効果をより高められるよう適宜改善を加えながら，学生指導にあたる１年であった．

〔キーワード〕　基礎体験活動　子ども理解　教職志向性向上

Ⅰ　はじめに

2004年より開始された1000時間体験学修も，今年度（2025年度）で22年目となり，長期に渡って教育学部のカリキュラムの根幹を担ってきた．運用開始から様々な見直しが行われ，日々の学生指導にあたる業務もシステム化されてきた．その業務の１つに「10の確認項目」がある．新規に学生の受け入れを希望する団体に対しては「10の確認項目」に沿って担当者が活動内

*島根大学教育学部附属教育支援センター
**島根大学教育学部保健体育科教育専攻（附属教育支援センター長）

容や活動環境について事前に聞き取りを行い，受け入れ先として問題ないことを確認した上で，学生募集をかける形態を取ってきた．しかし，この「10の確認項目」を運用する以前より活動の場を提供いただいている受入団体や，新規申込み時から担当者が変更になった受入団体の中には，「10の確認項目」の内容が遵守されていない状況が見受けられた．そこで，大学側と受入団体側で，指導体制や活動環境の把握にお互い齟齬が生じないようにするための手続きについて検討する必要があった．長年続けていることで，学生の活動環境の把握，確認が疎かになっていた点は否めず，この点を解消するため，今年度新たに「基礎体験活動ガイドライン」を作成し，次年度からの全ての活動に対して運用することとなった．加えて，基礎体験活動の主旨や活動に参加する学生の安全･安心を確保することの重要性について理解を図るため，基礎体験活動連絡会議にて受入団体の代表者に直接伝えることとした．併せて，受入団体向けの文書として「基礎体験だより」や「体験活動実践記録」を新たに作成した．20年以上続く基礎体験活動のプログラムの教育効果をより高めていくために，大学側と受入団体側双方の共通理解のもとで学生が活動できる環境づくりを進めて行く必要がある．

基礎体験必修セミナーは，これまでの実績をベースにして全体指導と上級生アドバイザーを活用したグループワークを中心に構成した．また近年は，活動先で対峙する子どもへの指導方法に課題を感じる学生が増えていることから，指導的立場にある際に何を考えて指導にあたるべきか，指導者としての心構えについて演習形式で考える時間も新たに設けた．

３年次後期の実習セメスターが復活して今年で３年目となる中，この時期にオプション活動として取り入れている「母校での学校体験活動」への参加人数が，過去２年間を大きく超えて今年は延べ73名であった．参加人数が増えることでセンター教員の業務は増えるが，附属学園での教育実習とは異なる体験活動の場であり，学生の大きな学びにつながる活動となっているため，今後も継続していきたいプログラムである．

本稿は，教育学部の中心的なカリキュラムである1000時間体験学修における基礎体験活動が，教員を養成するためのプログラムとしてより機能的なものになるよう考察を加えながら．令和７年度のセンターの活動実績をまとめたものである．

Ⅱ　令和７年度の取り組み

１．基礎体験活動

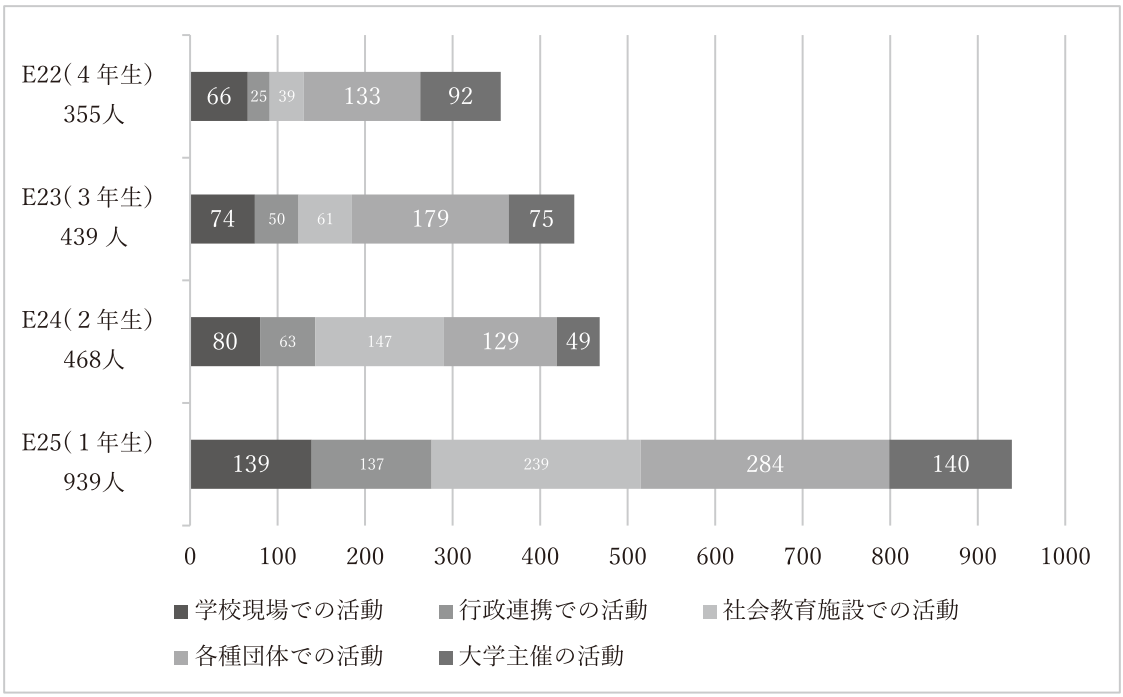
【表１】基礎体験活動への参加実績（過去 10 年間）

	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07
受入団体数（団体）	184	183	192	188	93	133	160	192	202	201
募集活動数（件）	391	387	379	358	160	233	293	389	404	350
学生参加活動数（件）	337	327	319	303	147	203	278	363	335	313
参加学生延べ人数（名）	2,305	1,818	1,913	1,985	1,554	1,691	1,868	2,058	1,950	2,231

⑴　基礎体験活動の参加実績（専攻別体験等を除く）

令和６年度のカリキュラムの改訂に伴い，基礎体験活動の卒業要件が800時間，基礎体験活動（選択）において学校教育体験が必修100時間となる大きな転換期を迎え，今年度は２年目の取組となった．卒業要件が800時間になったことで学生の基礎体験活動への参加の低迷も懸

念されたが，昨年度に引き続き今年度も学生の参加状況は非常に活発であった．平成16年度の改組により基礎体験活動を卒業要件とするようになって以降の過去10年間の実績は【表１】に示すとおりである（「参加学生延べ人数」が平成29年度を境に減少しているが，これは教育学部の入学者募集定員を２割程度削減（170名→130名）したことが要因である）．令和２年度以降コロナ渦の影響を受けた時期もあったが，令和５年５月からは宿泊を伴う体験活動も再開され，受け入れ団体数や参加学生延べ人数は大きく回復している．今年度の受け入れ団体数は201件と昨年度とほぼ同数の多数の団体数を維持した．参加学生延べ人数は2231名であり，教育学部の入学者募集定員の削減以降では過去最多となった．（募集活動数は昨年度比で約50の減となっているが，これは活動先のイベントの開催の仕方や募集の仕方の変更によるものである．）令和７年度の基礎体験活動における各学年の参加人数は図１に示すとおりである．１年生の延べ参加人数が939人と最多であり，続いて２年生が468人であった．１・２年生の参加人数の合計が，全体の約６割を占めている状況となっており，下学年の活発な参加状況が伺える．令和６年度より再開した「基礎体験活動合同説明会」では，今年度も20団体の事業所の協力を得ることができた．事業所の担当者との対面説明の機会は，１年生にとって活動内容の理解，担当者とのつながりを深めるよい機会とり，新入生が基礎体験活動に取り組むにあたって，大きな推進力になっているといえよう．



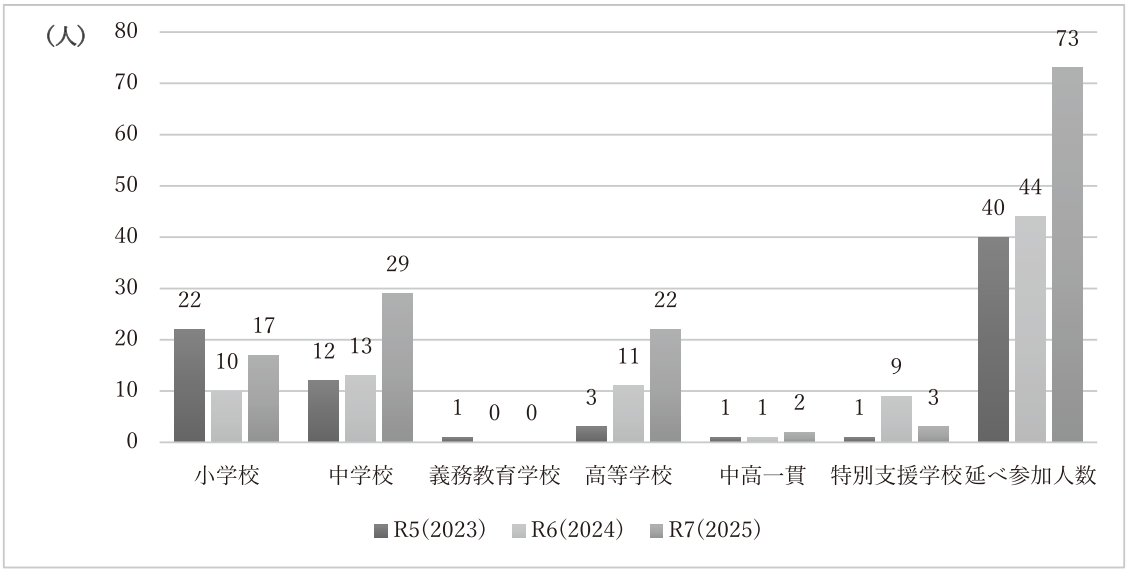
【図１】令和７年度　学年別参加状況（システムに登録した延べ人数）

また，今年度の取組として，100時間の学校教育体験が必修化されたことに伴い，学校教育体験活動の分類を明確化したことがあげられる．学校現場での正課・正課外の活動で子どもとの関わりがある活動，またはそれに準ずると判断される活動には【学】を明記して学生に提示

し，新カリキュラム運用以降の１・２年生には，必修セミナーにて【学】の活動について説明を行った．【学】の活動は，「学校現場での活動」「行政連携による活動」「大学主催の活動」と多岐に渡っており，今年度の活動への参加者は１年生が250名（昨年の同時期の１年生は195名），２年生が144名（昨年度時期の２年生は89名）であった．昨年度以上に学校教育体験活動に積極的に参加している傾向にある．学生が参加した主な学校教育体験活動としては，「附属学校前期課程支援活動」「松江市内小学校支援活動」「しまねの教員魅力☆５days体験プラン」「鳥取県東部地区母校等支援活動」「鳥取県中部地区母校等支援活動」「米子市小・中学校教育支援活動」などがあり，これらの活動は昨年度に引き続き実施している．特に「しまねの教員魅力☆５days体験プラン」は今年度より高等学校での体験活動が２校増え，合計12校での活動が実現し，学生のニーズに応じた校種での体験活動がより充実してきたところである．

学校教育体験活動については，令和５年度から実習セメスターのオプションとして実施している「実習セメスターにおける学校教育体験活動」にも注目しておきたい．コロナ渦以前は「スクール・インターンシップ」として取り組んでいた活動であるが，随時募集される島根県・鳥取県を中心とした活動が充実していることから，学生の出身地にも対象区域を広げ，学生の母校を対象とした小学校・中学校・高等学校，あるいは募集されていない島根大学近隣の学校で学校教育体験活動を行うものである．令和５年度からの３年間の参加実績の推移を図２に示している．令和５年度は延べ40名の参加だったが，今年度は73名となり初年度の２倍近くの参加希望があった．特に高等学校は附属学校園での教育実習が実施できないこともあり，初年度と比較しても約７倍の学生が参加し，自らの適性を確かめ，進路決定の大きな手がかりにする貴重な体験の機会となっている．令和７年は中学校の参加者も例年の約２倍となっている．普段募集が少ない中学校や高等学校あるいは特別支援学校での学校教育体験活動を行う貴重な時間として，この活動が定着してきているといえよう．

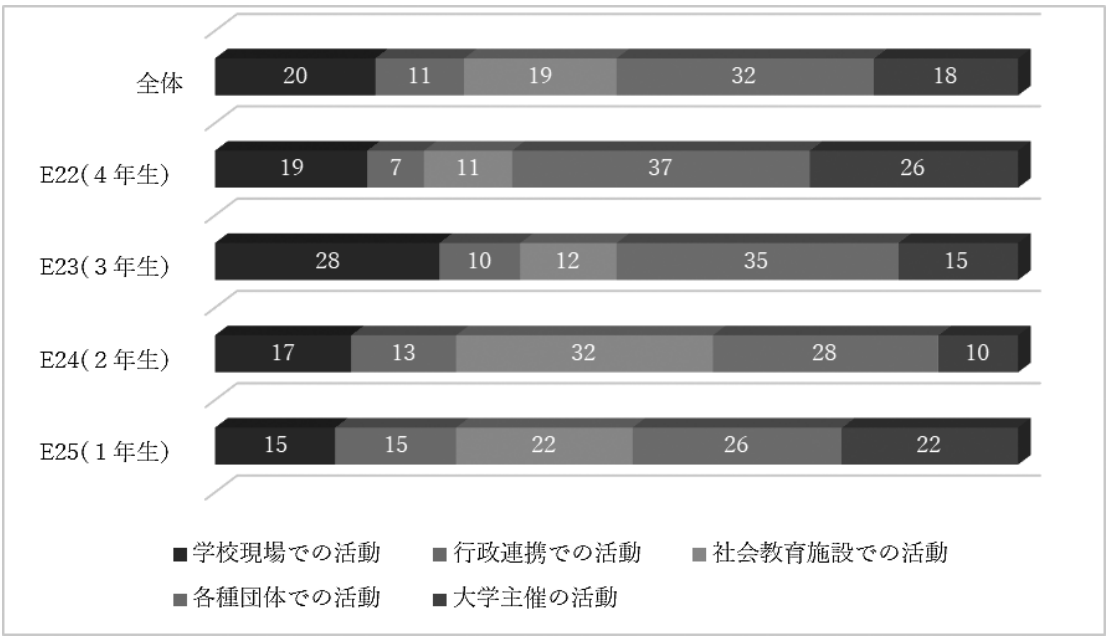
図３には今年度の基礎体験領域の各学年の参加種別の割合を示している．これは普段募集されている活動に「実習セメスターにおける学校教育体験活動」に参加した３年生73名を加え



【図２】「実習セメスターにおける学校教育体験活動」３年間の参加実績

た参加延べ人数を示したものである．

近年の全体の傾向としては，学校現場と行政連携（行政連携の活動も学校での体験が多いため）で約３割，社会教育施設での活動が約３割，各種団体での活動が約３割とどこかに大きくかたよることがなく，バランス良く活動に取り組んでいるといえる．学校現場での体験活動は「実習セメスターにおける学校教育体験活動」への取組が積極的であることからも３年生は学校現場での体験の割合が多い．また社会教育施設での体験は，イベントや宿泊を伴う活動には１，２年生の参加が多い．各種団体での活動はいずれの学年も参加が多い傾向にあることも確認できた．新カリキュラムで１，２年生は学校体験が必修100時間となっているが，学校体験に偏ることなく様々な活動を通じて教師力に磨きをかけていることは喜ばしい結果である．今後も学生たちのニーズに応じた多岐にわたる活動を提供し，学生の主体的で積極的な活動を支援していきたい．



【図３】令和７年度基礎体験活動の各学年と全体の参加種別（実習セメスターオプション含む）

⑵　基礎体験セミナー等

基礎体験活動の目的や積極的な参加への心構えを確認するために，各学年の段階に応じた各種セミナーを定期的に行った．今年度の取組と実施状況は，【表２】のとおりである．

【表２】　令和７年度基礎体験セミナー等（必修）の実施状況

学年	セミナー名	認定時間	実施日時
1	入門期セミナー	８時間	４月19日（土）10：00～16：30
	スタートアップセミナー	３時間	９月26日（金）９：30～12：00，13：30～16：00
1・2	基礎体験交流会	２時間	１月30日（金）13：00～14：35，14：55～16：30
2	充実期セミナー	２時間	９月29日（月）９：30～12：00，13：00～15：30

3	応用期セミナー	3時間	11月28日（金）13：00 ～ 16：30
4	発展期セミナー	2時間	9 月25日（木）13：00 ～ 14：40

① 入門期セミナー

本セミナーは，入学して間もない時期に新入生を対象に実施するもので，同級生や上級生との親睦を深めるとともに，「1000時間体験学修」について理解し，学修意欲の向上を図ることを目的としている．詳細は以下のとおりである．

入門期セミナー 2025の実施概要

【1．目的】

⑴新入生同士の親睦（横のつながり）や上級生との親睦（縦のつながり）を促すとともに，新入生の心配・不安・疑問等の共有・解消を図る．

⑵１０００時間体験学修「基礎体験活動（選択）」に係る内容や参加手続き等の理解や学修意欲の向上を図る．

【2．対象】1年生全員　138名

※上級生アドバイザー（4年生）　24名

【3．日時】令和7年4月19日（土）10：00 ～ 16：30

※「学校教育実習Ⅰ」のグループを活用．各グループの学生数は5～6名．

※参加学生……出席とアンケート回答により8時間認定．

※不参加学生…補講（センター長挨拶の録画視聴，基礎体験領域について）とアンケート回答により1時間認定．

【4．会場】大学会館3階　大集会室

【5．日程】

10:00	10:15	10:55	11:05	12:00	13:00	14:45	15:00	15:15	16:20	16:30
開会行事	【研修1】基礎体験領域について	休憩	【研修2】アイスブレイク レクリエーション	昼食・休憩	【研修3】主な基礎体験活動の紹介＆グループ協議（14:00~14:10休憩）		研修4の説明	移動	【研修4】基礎体験活動 合同説明会	閉会行事

【6．内容】

⑴開会行事【15分】

①挨拶（教育支援センター長の話）

②趣旨・日程説明

③教育支援センタースタッフと上級生アドバイザーの紹介

⑵研修1「基礎体験領域について」【40分】

○基礎体験活動（選択）への参加手続きやきまり，マナー等の説明

⑶研修2「アイスブレイクとレクリエーションゲーム」【55分】

○「自己紹介＆人間ビンゴ」「超団体高速ジェスチャーゲーム」「糸」の3つのレクリエーションゲームを，上級生アドバイザーが主導して実施．

⑷研修3「主な基礎体験活動の紹介＆グループ協議」【105分】

○学校教育体験2件，イベント型の体験2件，通年型の体験2件について，上級生アド

バイザーがプレゼンテーションを実施.

○グループ協議では，上級生アドバイザーが進行役を務め，新入生から感想や不安・疑問を聞き出す．上級生アドバイザーは自分の体験談も交えながら，新入生の不安・疑問の解消に努める.

⑸研修４「基礎体験活動合同説明会」【65分】

○第２体育館に移動し，受入先事業所が設置したブースを回って，実際にどのような活動を行うのかを知る.

⑹閉会行事【10分】

○学生の感想発表

○上級生アドバイザーからのメッセージ

○センター長挨拶

○諸連絡



入門期セミナーグループ協議の様子



入門期セミナー合同説明会の様子

以下，教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示す.

教職員の振り返り（一部抜粋）

○レクリエーションの進行＆内容がとてもよかった。新入生同士の親睦が深まり，午後の活発なグループ協議につながっていた.

○上級生アドバイザーの良さも発見することができるし，上級生アドバイザーもこのような期間をとおして成長しているように窺えた.

○合同説明会では，学生が主体的に参加できる会だったと思う。興味関心があるところに自主的に動けるよい機会だった.

学生の感想（一部抜粋）

○アイスブレイクでは，様々な楽しい活動があったので班の人との緊張がほぐれ，親睦を深める方ができてよかった．また，ブースなどではそれぞれのグループが個性的に説明してくれて簡単に理解できて良かった.

○同じ学部の先輩と1000時間体験学修のお話をたくさん聞くことが出来て良かった．どうやって応募したり，どのような種類があるかなどの疑問がなくなっていき，良かった.

○様々な事業者のお話を直接聞けたことで，不安でいっぱいだったことが，大きな安心材料となった.

② スタートアップセミナー

本セミナーは，１年生が対象の基礎体験セミナーである．入学してから半年が過ぎたところで，初めて取り組んだ基礎体験活動（選択）について振り返り，今後の活動へのより良い見通しをもつことを目的として実施した．詳細は以下のとおりである．

スタートアップセミナー 2025実施概要

【1．目的】

⑴入学時からの基礎体験活動の取り組みを振り返ると共に，活動参加への心構えや手続き等の再確認を行う．

⑵小グループでの体験発表会等を通して，体験活動で得られる多様な学びや課題を共有すると共に，今後の活動に向けて意欲の向上を図る．

【2．対象】１年生全員　138名

※上級生アドバイザー（４年生）　12名

【3．日時】令和７年９月26日（金）

⑴１回目（A・Bクラス）　9：30 ～ 12：00

⑵２回目（C・Dクラス）　13：30 ～ 16：00

※「学校教育実習Ⅰ」のグループを活用．

※各回は12グループで構成し，各グループの学生数は５～６名．

※参加学生……出席とアンケート回答により３時間認定．

※不参加学生…補講（センター長挨拶の録画視聴，全体指導）とアンケート回答により１時間認定．

【4．会場】大学会館３階　大集会室

【5．日程】

受付	開会	全体指導	休憩	グループ活動		休憩	ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動	閉会
		・活動時間の確認 ・基礎体験活動の活動状況 ・学校教育体験活動 ・学内資格		基礎体験活動発表会	上級生アドバイザーの助言		振り返り	

【6．内容】

⑴開会行事【10分】

①挨拶（教育支援センター長の話）

②趣旨・日程説明

⑵全体指導【30分】

①活動時間の確認及び手続きについて

②基礎体験活動の活動状況について（１年生の傾向等）

③学校教育体験活動について

④学内資格について

⑶グループ活動

①基礎体験活動発表会【40分】

○グループ活動の進め方について．

○自己紹介．グループごとに司会者を決定．

○全員が，これまでの体験活動内容やそこから得た学び・課題を発表し合う．
○体験活動を積み重ねることの意義について話し合う．

②上級生アドバイザー（４年生）からの助言【15分】
○より意欲的な参加に向けて具体的に助言する．（体験活動発表内容も参考にして）．

⑷本セミナーの振り返り【25分】
①上級生アドバイザーの話を受けて，個人の振り返りを発表し，今後の活動の見通しや取組の姿勢について話し合う．【15分】
②今後の活動に向けてグループ代表者の発表【10分】（１グループ１分程度×６グループ選出）

⑸閉会行事【10分】
○まとめ・諸連絡



スタートアップセミナーグループ協議の様子



スタートアップセミナー感想発表の様子

以下，教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示したい．

教職員の振り返り（一部抜粋）

○体験活動の経験が少ない中でも，自身の学びをしっかりとした言葉で話している姿が散見された．
○上級生アドバイザーのプレゼンに関心を持ちながら聞いていた
○グループ活動で個々の振り返りを発表した後，グループでそれをまとめる時間を取っていたが，既に個々で振り返りを発表しているので，そこからさらに深める作業が難しいように見えた．

学生の感想（一部抜粋）

○４回生のアドバイスや，同じ１年生の人達の活動の話を聞くことができ，自分がしてきた活動を振り返ることができていい時間を過ごすことが出来た．私は苦手分野の活動に全く参加していなかったため，克服するためにも後期以降取り組みたいと感じた．
○グループの他の人が体験学修を通して，どのような気づきや学びがあったかを知り，学びになった．上級生アドバイザーの話を聞いて今後，自分が体験学修を選択するときに気を付けたいことを明確にできた．
○４年生の発表を聞いて，通年の活動とイベント型の活動のどちらも魅力があるなと感じた．話を聞く中で同じ活動に偏らず，様々な年齢の人と関われるような活動を選びながら今後も取り組んでいきたいと思った．もっと1000時間に積極的に取り組もうと思った．

③１・２年生基礎体験交流会

本セミナーは，基礎体験活動（選択）について，同学年だけでなく他学年との交流を通して振り返り，今後の活動へのより良い見通しをもつことを目的として行った．詳細は以下のとおりである．

１・２年生基礎体験交流会2025実施概要

【１．目的】

⑴個々の基礎体験活動の実績を振り返り，自己内省を促すと共に，具体的な課題解決方法を探る．

⑵同学年や他学年との基礎体験活動に関する情報交換を通して，多様な学びを共有すると共に，今後の体験活動に対しての意欲を高める．

【２．対象】１年生　138名＋２年生　136名　＋Ｒ６欠席者　２名　計276名

【３．日時】令和８年１月30日（金）

⑴１回目（Ａ・Ｂクラス）　13：00 ～ 14：35

⑵２回目（Ｃ・Ｄクラス）　14：55 ～ 16：30

※「学校教育実習Ⅰ」のグループをもとにした２学年合同の特別グループを編成．

※各回は24グループで構成し，各グループの学生数は５～６名．

※参加学生……出席とアンケート回答により２時間認定．

※不参加学生…補講（センター長挨拶の録画視聴，全体指導）とアンケート回答により１時間認定．

【４．会場】大学会館３階　大集会室

【５．日程】

受付	開会	研修１	研修２	まとめ・閉会
		・基礎体験活動の活動状況，注意事項など ・大学生活全般の注意事項 ・母校体験について ・事業所からのメッセージ ・演習「こんなときどうする？！」	基礎体験活動発表会	振り返り 諸連絡

【６．内容】

⑴開会行事　【10分】

①挨拶（教育支援センター長の話）

②趣旨・日程説明

⑵研修１【40分】

基礎体験活動の実施状況，ルール・マナー，注意事項，演習等

⑶研修２【35分】

これまでの基礎体験活動の実施状況や学び等についての情報交換等（フリップトーク）

○説明・自己紹介・司会選出

○情報交換

①取り組んできた体験活動，印象深い体験活動＆理由
②身に付いたと思う「10の教師力」
③身に付けたい「10の教師力」とこれから
④フリートークタイム

⑷まとめ・振り返り，諸連絡【10分】
感想発表，諸連絡



研修会「あなたならどうする」の様子



基礎体験交流会グループ協議の様子

以下，教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示す．

教職員の振り返り（一部抜粋）

○演習では学生がかなり具体的に方策を考えたり話しあったりしている姿があったので，今後も取り入れてもよいかと思う．

○研修の中で，ロールプレイがあり，具体的な場面がイメージしやすくよかったように思う．

○感想発表を個人指名でなく，グループ指名することで学生が自主的に発表する姿勢を形成することができた．

学生の感想（一部抜粋）

○今回の交流会では自分がこの１年間で行ってきた活動を振り返ってどんな力を身につけられたのかや自分に足りない力はどんなものかを自己分析することができた．

○今回の交流会を通して，もっと教科の基礎知識・技能を身につけることができる活動に参加していきたいと思った．私は今までイベント系の1000時間体験に多く行っており，コミュニケーションやリーダーシップなど人と関わる教師力に関してはほぼほぼ身についたと思われる．

○交流会を通して，体験活動の中で困ったときにどうしたらいいのかを具体的に知ることができたり，実際の場面を想定した演習から，もし同じような場面にあったときにどんなふうに振る舞えばいいのかを考えたりすることができたと思う．

⑤　充実期セミナー

本セミナーは，２年生を対象として行う基礎体験セミナーである．入学してから１年半が経ち，学業も生活も充実してきた機会を捉えて，基礎体験活動について改めて見つめ直す場面を設定した．詳細は以下のとおりである．

充実期セミナー 2025実施概要

【１．目的】

⑴基礎体験領域でねらう資質・能力の視点から，これまでの取り組みを分析し，他者と比較しながら各自の成果と課題を明らかにする．

⑵グループ協議により，基礎体験への意欲の違いや考え方について明らかにするとともに，基礎体験がより充実・拡大していくような意欲づけを行う．

【２．対象】２年生全員　136名

※上級生アドバイザー（４年生）　12名

【３．日時】令和７年９月29日（月）

⑴１回目（Ａ・Ｂクラス）　9：30 ～ 12：00

⑵２回目（Ｃ・Ｄクラス）　13：30 ～ 16：00

※「学校教育実践研究Ⅰ」のグループを活用．

※各回は12グループで構成し，各グループの学生数は５～６名．

※参加学生……出席とアンケート回答により２時間認定．

※不参加学生……補講（センター長挨拶の録画視聴，全体指導，グループ協議）とアンケート回答により１時間認定．

【４．会場】大学会館３階　大集会室

【５．日程】

受付	開会	全体指導	休憩	グループ活動❶	休憩	ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動❷	閉会
		・活動時間の確認 ・基礎体験活動の活動状況 ・学内資格制度等		基礎体験活動発表会 上級生アドバイザーの実践発表 意見交換		振り返り	

【６．内容】

⑴開会行事【10分】

①挨拶（教育支援センター長の話）

②開催にあたっての注意

⑵全体指導【35分】

①趣旨説明

②基礎体験領域における実施状況・学内資格制度等

⑶グループ活動①【50分】

①これまでの体験発表

②活動を積み重ねる意義について協議

③上級生アドバイザーの実践発表・意見交換

⑷グループ活動②【25分】
　①今後の取り組み姿勢発表
　②代表発表（４人選出）
⑸閉会行事【10分】
　○まとめ・諸連絡


充実期セミナーグループ協議の様子


充実期セミナー上級生の実践発表の様子

以下，教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示したい．

教職員の振り返り（一部抜粋）

○グループ活動の際，前面のスクリーンに「活動の概要，なぜ行っているのか，活動で得られたこと，課題」（「野菜づくり」のスライド）が話すポイントの例として示されていたので，これをもとにしっかりと話をしている学生が多くみられた．

○４年生のアドバイザーのプレゼンにとても興味をもって聞いている様子だった．また１年生とは違って２年生が４年生とも対等に話合いをしているグループが多く見られ，学びの深まるところが多々あったように思う．

○終了後，全体指導の中で，「学校教育体験活動」及び「学内資格」の説明がありとても参考になったという意見があった．

学生の感想（一部抜粋）

○他の人の活動時間を見て，自分ももっと参加しないといけないと思った。学校体験の活動や学習支援にまだ行けていないので，そのような活動時間に積極的に参加できるようにしたい．また，体験内容が苦手なものでもそれを克服するために参加していこうと思った．

○これからの1000時間体験の選択の仕方について学ぶことができた．自分は今まで通年の学校に関する取り組みに多く参加していたので，イベント形式の短期間の活動に参加していくことで，バランスの良い経験を積み，より有意義な活動ができると考えた．

○２年生になって1000時間になれてきたのもあり，1000時間活動に対して，目的や意義を考えることをしてこなかったが，今日を通して，改めて目的や意義を考えることの大切さを感じた．また，上級生アドバイザーの方のお話をきいて，通年の活動についてや新しいことに挑戦していくこと，時間の使い方をうまくすることなどを学んだ．この活動を今後の1000時間活動にいかしていきたい．

⑤　応用期セミナー

本セミナーは，３年生を主対象とし，加えて前年度未参加者も対象として実施した．基礎体験活動に対する成果と課題を明らかにするとともに，よりよい進路決定に向けてこれから取り組むべきことを具体的に考える機会となるよう設定した．詳細は以下のとおりである．

応用期セミナー 2025実施概要

【1．目的】

⑴基礎体験活動の実際を踏まえ，一人一人がこれまでの体験時間を確認し，基礎体験活動に対する成果と課題を明らかにする．

⑵これまでの活動を振り返って今後の大学生活を展望するとともに，進路決定に向けての自己啓発を強く促す．

【2．対象】３年生全員　137名＋前年度未参加者　12名　　計149名

※上級生アドバイザー（４年生・大学院生）　27名

【3．日時】令和７年11月28日（金）13：00 ～ 16：30

※参加学生……出席と振り返りフォーム提出により４時間認定．

※不参加学生…補講（センター長挨拶の録画視聴，全体指導）と振り返りフォーム提出により１時間認定．

【4．会場】大学会館３階・２階

【5．日程】

開会行事	全体指導	グループ協議①	休憩	プレゼンテーション（15分×4回）	休憩	グループ協議②	閉会行事

【6．内容】

⑴開会行事【10分】

①挨拶（教育支援センター長の話）

②趣旨や日程等の説明

⑵全体指導【20分】

基礎体験活動の活動状況について

⑶グループ協議①【25分】

自己紹介も含め，これまでの基礎体験活動等を通し，自分の「成果と課題」について発表し合う

⑷プレゼンテーション【80分】

①プレゼンテーションについての説明【５分】

②プレゼンテーション【75分】

	ブース①	ブース②	ブース③	ブース④
1回目	島根県小学校	島根県高等学校	鳥取県小学校	島根県中学校
2回目	〃	島根県特別支援学校	〃	〃
3回目	〃	鳥取県高等学校	鳥取県中学校	〃
4回目	〃	京都府高等学校	〃	〃

	ブース⑤	ブース⑥	ブース⑦	ブース⑧
１回目	広島県中学校	大学院	公務員	民間企業
２回目	〃	公務員	民間企業	〃
３回目	〃	大学院	公務員	〃
４回目	山口県中学校	公務員	民間企業	〃

※進路の内定を得た４年生24名が上級生アドバイザーとなり，８か所ブースを設け，１回あたり発表10分＋質疑５分のプレゼンテーションを４回実施.

⑸グループ協議②【30分】

現在考えている進路と志望理由，今後の準備・対策等について分からないことや困っていること等について意見・情報を交換し合う．適宜，上級生アドバイザーから助言をもらう

⑹まとめ・諸連絡【25分】

①まとめ

参加学生５名による感想発表と，上級生アドバイザー１名から激励のメッセージ.

②諸連絡



応用期セミナー上級生アドバイザープレゼンの様子



応用期セミナーグループ協議の様子

以下，教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示したい.

教職員の振り返り（一部抜粋）

○プレゼン形式でブースを設定するのは大変ではあるが，参加者の振り返りを聞くと，参加者にとっては大変効果的でとても有意義なセミナーだなと実感した.

○アドバイザーが自分の取り組みをしっかりまとめており，３年生がしっかり説明を聞いていた．グループ協議もどのグループも時間いっぱい積極的に話をしていてよい雰囲気だった.

○３年生にとって，進路に関する情報は重要な課題であるだけに関心が高かった。事前に，学生の希望をとりグループ編成されていてよかった.

学生の感想（一部抜粋）

○自分はこれまで公務員になることだけを決めており，ただ漠然と考えていたが，今日のセミナーの話を聞いて，具体的にどのようなことを先輩方はしていたのか，何をするべきなのか何から始めればいいのかがわかったため，今後頑張っていくにあたっての指針となる活動であった.

○セミナーを通して，自分の進路に向けた具体的な道筋と興味の刺激をすることができた．教員採用試験については考えてはいたものの，どこから手を付ければ良いのか全く分からず困っていたため，実際に受け，合格した先輩からの話は貴重で大変役に立つものが多くあった．

○進路が定まっていない中でこのような体験をできたことは今後を考える上で凄く重要であった．どうすれば良いか分からないという状況から選択肢を提示して頂けたことで少し気持ちが楽になった．将来に向けて頑張っていきたい．

⑥　発展期セミナー

本セミナーは，４年生を主対象とし，昨年度の未受講者も加える形で実施した．「基礎体験活動と自分，そしてこれからを考える」をテーマに，1000時間体験学修における基礎体験領域での学びを総括する機会として位置づけた．詳細は以下のとおりである．

発展期セミナー 2025実施概要

【１．目的】

<1000時間体験学修における基礎体験領域での学びの総括>

一人一人がこれまでの体験時間を確認し，基礎体験活動に対する成果と影響度を協議することを通して，自分自身の学修について査察する契機とする．

テーマ「基礎体験活動と自分，そしてこれからを考える」

【２．対象】卒業年次生全員　132名＋過年度生　３名　　計135名

【３．日時】令和７年９月25日（木）13：00 ～ 14：20

※「学校教育実践研究Ⅰ」のグループを活用．

※各グループの学生数は５～６名．

※参加学生……出席とアンケート回答により２時間認定．

※不参加学生…補講（センター長挨拶の録画視聴，全体指導，グループ協議）とアンケート提出により１時間認定．

【４．会場】大学会館３階　大集会室

【５．日程】

		【全体指導】		【グループ協議】		
受付	【あいさつ】	① 趣旨説明	② 実施状況説明	①　プログラムの説明 ②　アイスブレーキング	③　振り返りとディスカッション ア　思い入れのある活動 イ　身につけることのできた１０の教師力 ウ　今後どう活かしていくか	【まとめ】

【６．内容】

⑴開会行事【５分】

○挨拶（教育支援センター長の話）

⑵全体指導【10分】

①趣旨説明

②基礎体験活動における実施状況

⑶グループ協議（全員参加型ディスカッション）【55分】

テーマ「基礎体験活動と自分，そしてこれからを考える」

①プログラムの説明とアイスブレイク

②振り返りとディスカッション

ア　思い入れのある活動への振り返り

イ　身につけることのできた「10の教師力」

ウ　基礎体験活動を今後どう活かしていくか

⑷閉会行事【10分】

○まとめ



発展期セミナーグループ協議の様子



発展期セミナー感想発表の様子

以下，教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示したい．

教職員の振り返り（一部抜粋）

○どのグループも話し合いが活発だった．アイスブレイクをはじめに入れている成果だったと思う．どのグループも落ち着いた様子で活動できていた．

○４年生はディスカッション・グループ協議の経験が豊富なこともあり，協議がキャッチボールをするかのように活発だった．

○全体指導の内容が多くあることから指導時間が25分を超えた．内容の精選，または時間配分の検討が必要であった．

学生の感想（一部抜粋）

○自分の活動を振り返ると共に，他の人の活動状況や将来への活かし方も知ることが出来てよかった．教員になる人もならない人も，基礎体験活動は社会人として活躍する上で大きな力になっていると感じた．

○本セミナーでは他の人の感想などを聞くことで，似たような体験活動をしていても感じ方は異なることを学んだ．もうすぐ卒業だが，基礎体験活動で学んだことを活かして働きたいと思う．

○４年間の活動を通してどのように成長できたかを確認し合うことが出来た．また，残りの時間で自分自身がどのように1000時間体験学修に取り組むべきなのか，といった姿勢の面でも改めて考えるきっかけになった．

⑷　教育支援センター演習

今年度も，昨年度同様以下の演習①②を開設し，講義・講話を聴いて（視聴して）レポートを作成して教師力を高めていく取組としてスタートした.

①「だんだん塾特別講義」
・これまでのだんだん塾の模様を収めた動画（表５）を視聴しレポートを作成
・活動時間として，３時間×受講回数を認定
・動画内には児童や生徒等についての個人情報が含まれるため，情報モラルに則り，「収集した個人情報はむやみに利用しないこと」,「第三者に提供したりしないこと」,「誹謗中傷等しないよう心がけること」以上３つの観点から，取り扱いには十分注意
・動画１本につき１回のレポート提出が原則
※対面で開催する「だんだん塾特別講義」に参加し，レポートを提出した場合は，５時間の認定

②「学校現場概論」
・学校現場経験者との自由な語り合い
（学校現場で求められている力や教職の魅力，学校現場の課題，学級経営のノウハウ，生徒指導，保護者対応等について）
・教員採用試験や基礎体験活動等についての質疑・応答
・添付の担当者一覧（表４）にある項目「主なジャンル」から，興味を持った担当者を選択し，受講
・オンラインミーティングや対面型等希望に応じて実施
・１回につき45分間程度の受講時間.（１回につき５時間＋ α の認定）
・レポート提出上限なし
・指定のレポート様式（文字数の基準：400字以上）を使用する

次に，今年度の実施状況を以下に記す.

①　だんだん塾特別講義（全学年対象）…動画視聴後のレポート

１月の段階で動画視聴できる内容をまとめると次のようになる.

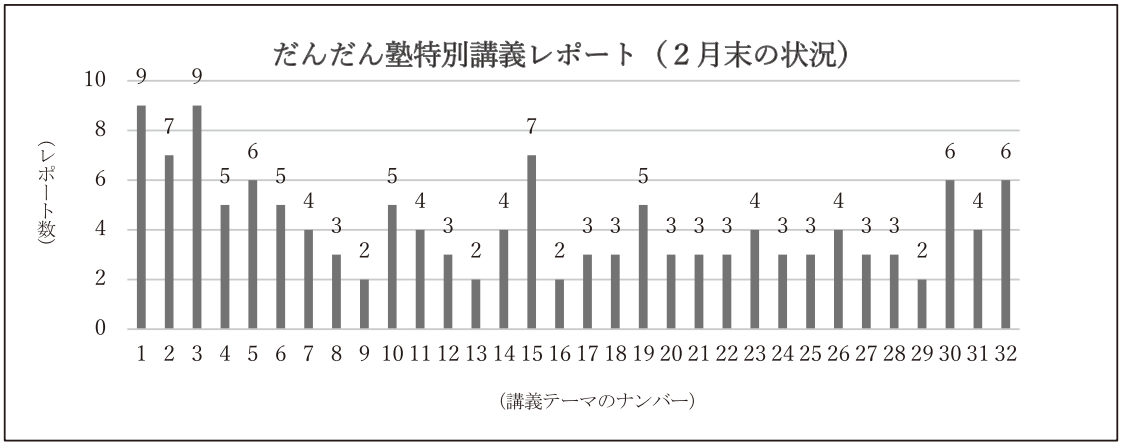
【表３】だんだん塾特別講義一覧（テーマのみ）

No.	テーマ
1	学級経営　　～グループからチームへ～
2	教職を目指しているみなさんへ
3	教育現場の実践とやりがい　～魅力にあふれる教師になるために～
4	アドラー心理学からみた教育現場への提言
5	主体的・対話的で深い学びのためのICT利用・活用
6	少し未来の学校　～新学習指導要領とふるさと教育・教育の魅力化～
7	解決志向アプローチを活かした未来の教室

8	現場校長から大学生へのメッセージ　～教師を目指す皆さんへ伝えたいこと～
9	この世で最も素晴らしい仕事　～私が出会った３つの衝撃から
10	甘えとストレス　～スマートな大人になるためのチェックポイント～
11	松江市の特別支援教育の状況・そして子どもたち
12	大学時代に学んだことは社会に出てから　～ 1000時間体験学修の意義～
13	現場で即戦力として活躍するために ～今，見ておくこと．そして，すべきこと．現場校長の視点から～
14	『学習に向かう力を育てる体つくり』の実践から
15	保護者とのほっとコミュニケーション
16	学びに困難を抱える児童生徒をどう理解し，育成していくか
17	へき地校（小規模校）の学校運営について
18	～未来の先生のために～　学級づくり
19	学び合い支え合う集団づくり　～人間関係づくりの必要性を理論や実践から学ぶ～
20	教育現場の実務と基礎体験活動のつながり
21	めざせ！教職
22	社会人に向けてステップアップ！ ～就職活動に係る面接試験の接遇や教員採用試験に向けた基礎知識等から学ぶ～
23	保健室から見えてくる学校の今
24	GIGAスクール構想やICT活用の具体内容を学ぶ ～教育行政や学校現場での取組を通して～
25	仕事ってなんのためにするの？
26	自分を変える～接遇スキルを強い味方に！～
27	いじめの未然防止につながる人権教育
28	アルゼンチン日本人学校から見た日本と教育
29	教育実習や基礎体験活動等に役立つロジカルシンキングとは
30	保護者と信頼関係をつくる懇談のために
31	生徒指導の現状と対策～取組の光明と心得～
32	みんなちがって，みんないい～教師の色はいろいろ～
33	効果的に機能するコミュニケーションの大切さ ～メラビアンの法則に見る視覚・聴覚・言語情報の大切さ～

上記の内容を視聴し提出されたレポート（２月末現在）の総数は135本（12人）となった．

テーマごとに提出されたレポートをまとめると次のようになる.



【図４】２月末の段階で開設しているだんだん塾特別講義レポートの提出状況

ひとつのテーマあたり，平均約４．２本のレポートが提出されており，昨年度より２．０本減少した．№１，２のレポートが９本と，今年度は一番多くレポートが提出された.

１・２年生の提出はともに０本であった。

② 学校現場概論「学校現場経験者の先生と語り合おう」（全学年対象）

令和３年度より，教職大学院及び学部附属教師教育研究センターと連携し，対応できる教員数を増やして体制を整えている.

【表４】 学校現場概論「学校現場経験者の先生と語り合おう」担当者等一覧

	担当者（所属）	これまでの主な勤務校（主な専門分野）
1	高塚　淳 （教育支援センター）	小学校（学級経営、体育科教育、保護者対応、不登校対応）
	takatsuka@du.shimane-u.ac.jp	
2	村尾　美幸 （教育支援センター）	小学校（児童理解、保護者対応、仲間づくり、特別支援，学級経営）
	muraomi1216@edu.shimane-u.ac.jp	
3	上代　裕一 （教育支援センター）	中学校（生徒指導（AD理論）、学級経営（QUの活用）、危機管理（クレーム対応）、教育相談（ブリーフカウンセリング）、部活動、保健体育）
	y-jodai@edu.shimane-u.ac.jp	
4	飯島　仁 （教育支援センター）	小学校、中学校（学校安全、学級経営、保健体育科教育、児童生徒理解、学習指導案（道徳，学級活動））
	iijima@edu.shimane-u.ac.jp	

5	橘　弘章 （教育支援センター）	小学校（学級経営，数学科教育，進路指導，キャリア教育，生涯学習，教育相談）
	tachibana-hiroaki@edu.shimane-u.ac.jp	
6	吉崎　朗 （教職大学院）	小学校（教科教育，学級経営，生徒指導，保護者対応，児童理解）
	yoshizaki@edu.shimane-u.ac.jp	
7	松尾　直樹 （教職大学院）	小学校，中学校（学校経営，学級経営，教科教育，危機管理，教育法規）
	matsuonaoki1964@edu.shimane-u.ac.jp	
8	福島　美菜子 （教職大学院）	特別支援学校（特別支援教育，教育相談，学校経営）
	mena3838@edu.shimane-u.ac.jp	
9	藤原　建 （教職大学院）	中学校（生徒指導、保護者対応、保健体育）
	fujihara_tk@edu.shimane-u.ac.jp	
10	安野　洋 （教職大学院）	中学校（教科教育、学級経営、部活動、青少年の健全育成）
	yasuno-hiroshi@edu.shimane-u.ac.jp	
11	吉田　博幸 （教師教育研究センター）	小学校（体育、学校経営）
	hyoshida@edu.shimane-u.ac.jp	
12	長岡　素巳 （教師教育研究センター）	中学校・高等学校（生徒理解と集団づくり、社会科（中学校）、地歴・公民科（高校））
	mnagaoka@edu.shimane-u.ac.jp	

学校現場経験者の教員との対話を終え，学生から提出されたレポート数はわずか５本であった．

学校現場概論を申し込む学生は，自己課題をもちながら積極的に教員と対話を行い，レポート作成などで振り返ることができる．しかし，今年度は３人の学生から３人の担当者に延べ12本と，希望者が少ない状況だった．一方，３年生後期の学期末から教員採用試験等就職に関する相談数が増加しており，その中で，それぞれの教員から専門とするジャンルに関しての内容理解を深めている状況もうかがえる．今後，適切な時期の広報等を行い，学生の自己課題を追究していく機会を保障するように努めていこうと考えている．

「だんだん塾特別講義」と「学校現場概論」については，それぞれの学生の課題追究を深めたり，広げたりする機会として今後も工夫しながら継続していくよう努めていきたい．また，

学生から提出されたレポートについては適宜，個別指導等を行い，学生の教育への認識が深まるようにしていきたい.

以下，学生の感想から本演習の成果を示す.

学生の感想（抜粋）

「だんだん塾特別講義」感想レポートから（「教育現場の実際とやりがい～魅力溢れる教師になるために」）

今回，境港市民図書館長さんの話を聞き，教育現場の現状や働く中のやりがい，魅力があふれる教師になるための方法について学ぶことができた。

まず，教育には，「学力」「メディア」「特別支援」「保護者」など様々な問題が関係し，多くの職務を任される中で働き方改革が推進されるため，自分である程度は目途を立てることが必要であるという話を聞き，最初から全ての業務を完璧に行うことを目標にするのではなく，自分の中で課題に対する達成したい目標を立て，目標を達成することをゴールにすることが，教育の現場で働く中で非常に大切であると考えた。

２つ目に，「教室が落ち着かない，子どもが落ち着かない」という問題が発生した際に，その原因は一つではなく，様々なケースが考えられるため，原因を追究して適切な対応を取ることが非常に大切であるということを学んだ。

３つ目に，教師として働くうえで意識するべきポイントについて聞き，①話すことについて，教師は働く中で非常に話す機会の多い仕事で，話す際は，要点を端的に短く，自分の表情は豊かに相手の表情を見ながら，また，視覚的な教材等を用いて，相手に応じた速さ，言葉遣いで話すことが重要であるという話を聞き，自分は普段の生活や実習，1000時間体験活動の際に，言葉遣いは気を付けることができているが，相手の表情を見ることや要点を的確に短く話すことがなかなかできていないと感じたため，今後は相手に合わせて話し方を変えることを意識したいと感じた。さらに，実習で授業実践やスピーチを行う中で感じた視覚的な教材等を使用することの効果について，館長さんからも効果があるという話を聞き，授業やスピーチの中で今後も積極的に活用していきたいと考えた。②聞くことについて，教師は話す機会の多い仕事であるが，相手の話を聞くこと，耳を傾けることも非常に大切で，特に目立つ子や話しかけてくる子以外の児童生徒の話を聞くためには，教師が聞くことを意識する必要があるということを学んだ。実習や1000時間体験活動で多くの児童生徒と関わる機会があるが，全員の生徒と話すのではなく，特定の児童生徒と話すことが多いと感じた。その特定の児童生徒は，学級や団体の中で目立つ児童生徒や，自分に話しかけたり寄ってきたりしてくれる児童生徒であると振り返り，今後は普段は話すことができない児童生徒に話しかけることを意識したいと感じた。

４つ目に，今の時点から心がけることとして，「自分が伝えたいことが，相手に理解してもらえるかどうか意識して対話する」「これからも，様々な体験を重ねる中で，多くの人と出会うようにする」ということをあげたい。特に，人との出会いには自分の価値観を広げ，人権感覚も磨くことにもつながるので大切にしていきたい。

２．学内資格認定制度

教育支援センターでは,「体験学修ピア・サポーター」「学校教育サポーター」「コミュニティサービス・サポーター」の３つの学内資格を設定している．今年度の認定者は延べ５名であった．（【表５】参照）

【表５】　学内資格認定者数

学内資格名	認定者数	学年別人数
体験学修ピア・サポーター	２名	３年生　２名
学校教育サポーター	１名	３年生　１名
コミュニティサービス・サポーター	２名	３年生　２名

３．各受け入れ先との連携

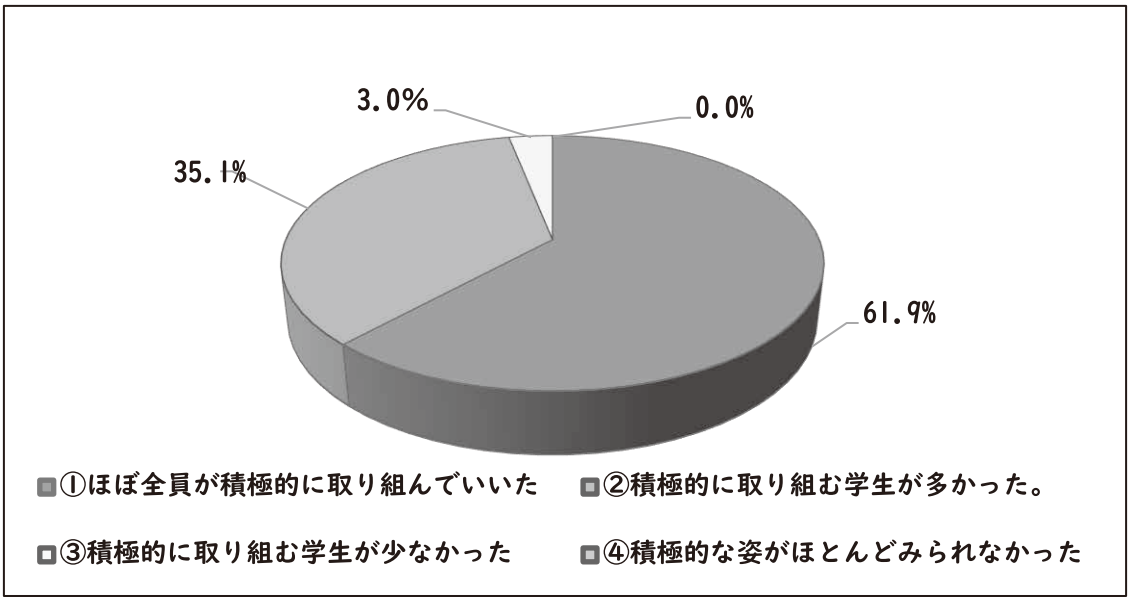
令和８年３月２日（月），鳥取県立武道館（米子市）において「基礎体験活動連絡会議」を実施し，翌週の３月９日（月）には島根県立美術館において「基礎体験活動連絡会議」を実施した．

実施前に受け入れ先の団体へ，今年度の取り組み状況などに関するアンケートを行った．

⑴アンケート調査結果

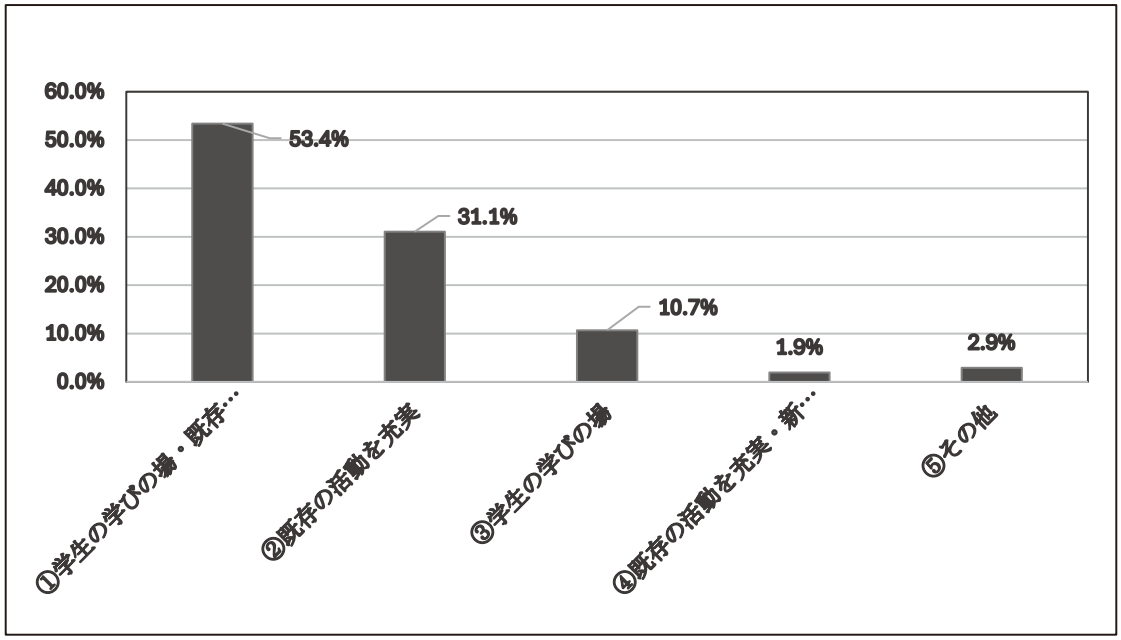
177団体にアンケート調査の依頼をし，104団体から回答があった．（回答率60.5％）

アンケート結果①「学生が体験活動に積極的に取り組んでいたかどうか」



「ほぼ全員が積極的に取り組んでいた」及び「積極的に取り組む学生が多かった」を合わせると97.0%となった．一方,「積極的に取り組む学生が少なかった」という意見もわずか（3.1%）ではあるがみられることから，各学年のセミナーや事中指導などの機会を利用し，個別のサポートを図る必要があるものと考える．

アンケート結果②「学生を受け入れるにあたっての考え方」



「学生の学びの場としての活動提供・既存の活動を充実するため」との回答が53.4となっていた．そして「既存の活動を充実するため」が31.1%であり，「学生の学びの場としての活動」が10.7%となっていた．

受け入れ団体の既存の活動を一層充実することと，学生の学びの場としての活動機会の保障との両者を充実させていくことが，学生の確かな「教師力」育成へと結びついていくと考える．

アンケート結果③自由記述より

回答の中で特に多かったのが，「連絡をしても学生からの返答がない」というものであった．このことについては，かねてからの課題でもあり，各学年のセミナーや，事前・事後指導などにおいて指導を続けていく必要がある．今後も，指導内容を工夫したり，学生が主体的に考えたりする機会をつくるなどして課題解決に向けて取り組みたい．

⑵基礎体験活動連絡会議

米子会場（鳥取県立武道館）と，松江会場（島根県立美術館）の２会場で開催した.

【日程・内容】

13:00	13:45	14:00	14:20	14:45	14:55			15:25	15:50	15:55
準備・打ち合せ	受付	開会 「あいさつ・趣旨説明」	【説明】 「今年度の状況・課題」	休憩	学生発表（30分）			全体質疑応答	閉会	
					①	②	③			
45分	15分	20分	25分	10分	10分	10分	10分	25分	5分	

「学生発表」について

「基礎体験活動」の当事者である学生の実践発表が本活動への理解を一層深めることに繋がると考え，２年前から取り入れている.

当日に向けて，発表学生６名と２度打合せを行い発表内容のプロットを次のように共有した.

○　これまで取り組んだ活動の概要
○　特に印象に残っている活動事例
○　活動をとおして学んだこと・うれしかったこと
○　これから活かしていきたいこと

発表資料を作成する期間を約４週間とり各自作成した資料をもとに「プレ発表会」を行った．互いの発表内容のよい点などを相互評価した.

【米子会場】

期日：令和８年３月２日（月）

場所：鳥取県立武道館・会議室

11名の参加者があった.

はじめに，教育支援センター長が「島根大学教育学部の1000時間体験学修～基礎体験活動を通した学び～」と題して説明を行った.

続いて教育支援センター副センター長が「今年度の基礎体験活動の状況・課題」について説明を行った.

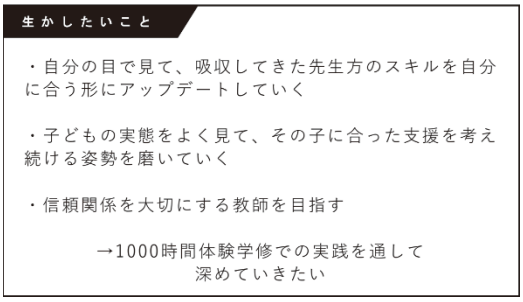
学生の発表については，３名の学生がそれぞれ参加した基礎体験活動や，活動から得たこと，今後活かしていきたいことなどを発表した.



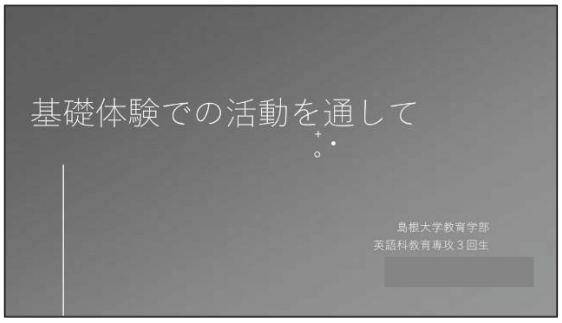
「米子会場での学生発表」について

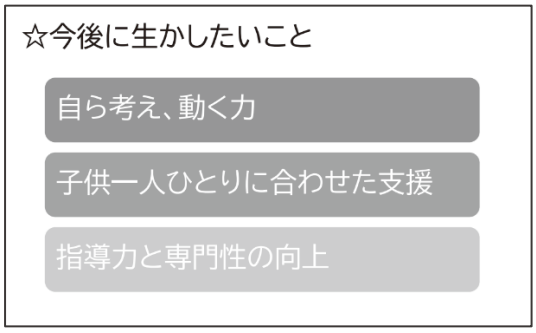
① 「基礎体験活動から得た学び」　　小学校教育専攻　３年生





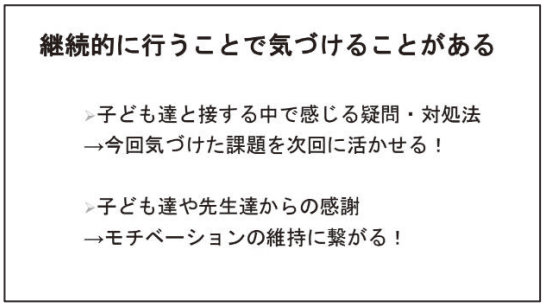
② 「基礎体験での活動を通して」　　英語科教育専攻　３年生





③ 「基礎体験活動を通して」　　英語科教育専攻　３年生





【松江会場】

期日：令和８年３月９日（月）

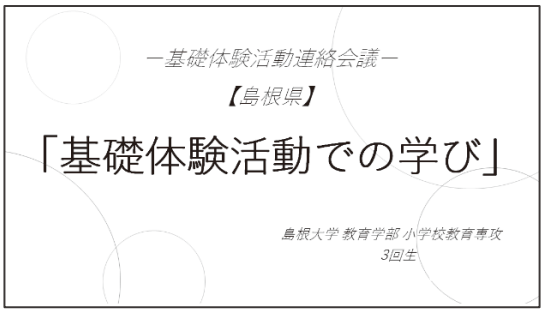
場所：島根県立美術館・ホール

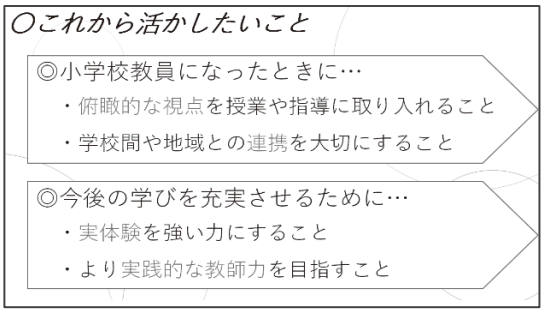
松江会場では37名の参加者があり，米子会場と同様のプログラムで実施した.



「松江会場での学生発表」について

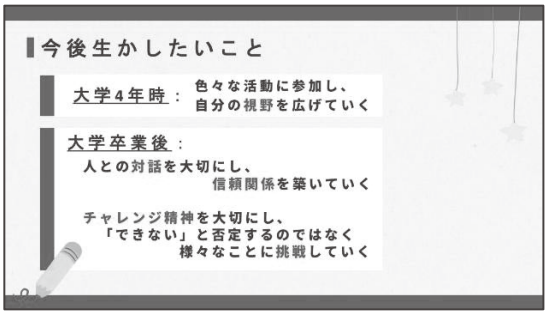
①「基礎体験活動での学び」　　小学校教育専攻　３年生



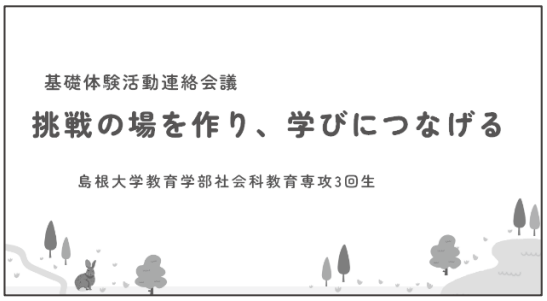


②「基礎体験活動への参加を通して」　　数学科教育専攻　３年生





③「挑戦の場を作り，学びにつながる」　　社会科教育専攻　３年生





Ⅲ　おわりに

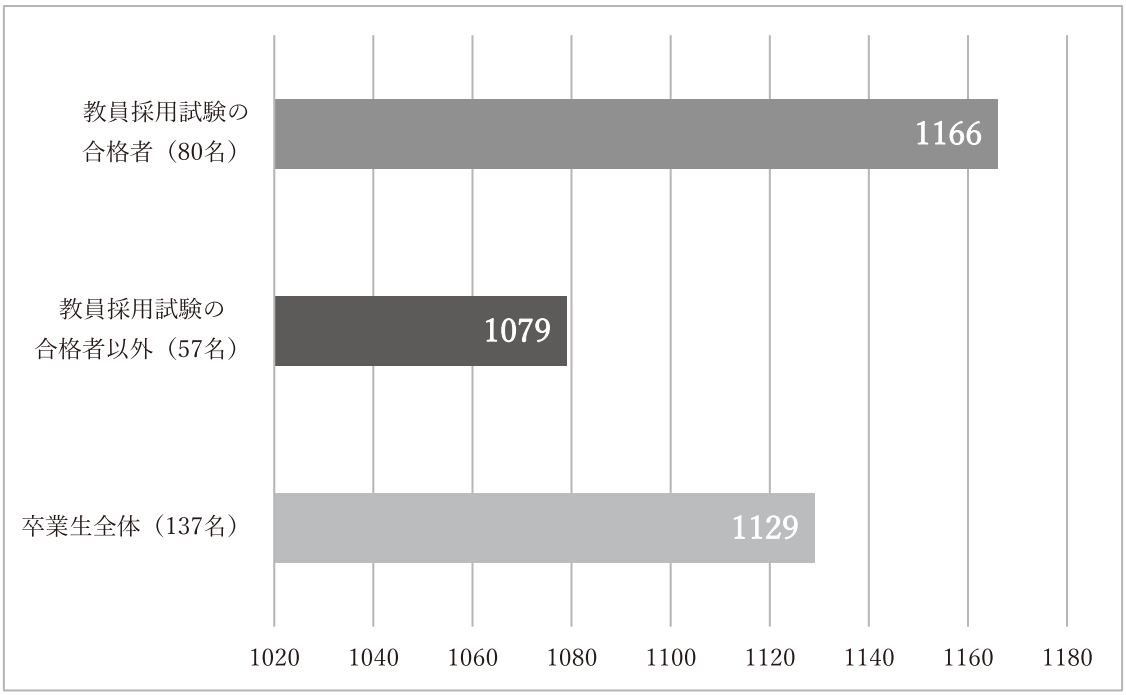
本学部全ての学年が新カリキュラムへと移行していく道のりの半ばにあり，各学年の学生が正しく自分のカリキュラムを理解し，スムーズに基礎体験活動に取り組めることに重点を置いて取り組んだ１年間であった．必修セミナーにおいても，“必修”の意義を学生が自覚できる指導体制を整えるため，必修セミナー時間認定までのフローチャートを作成した．各セミナーの担当教員が「振り返りフォーム」の回答を徹底し，様々な事情でセミナーに参加できなかった学生への補講を確実に行うことで，今年度は「入門期セミナー」「スタートアップセミナー」「充実期セミナー」「１，２年生基礎体験交流会」では受講対象者全員に指導ができたことは特筆しておきたい．（「応用期セミナー」については卒業年次生のみ補講対象として実施した）．参加学生延べ人数2231人と過去10年で最多という結果をもたらしたのも，このような徹底し

た取組の成果といえるだろう．

一方で，今年度の活動実績でも触れたとおり，１，２年生が参加学生延べ人数の６割を占める中で，子どもとの関わりの困難さに直面したり，活動先の担当者との連絡・調整に苦労したりするなど，活動先での学生の困り感が多く見られる状況もあった．学生と状況を確認する中で，単に学生の経験不足によるものだけでなく，活動先の担当者が基礎体験活動について内容把握されていないケースや，各活動場所での指導体制などについて学生が活動しづらい状況があることも見えてきた．学生が安心・安全な環境のもと基礎体験活動に取り組めるような体制を整えることが緊急の課題となった．そこで，今年度は米子市立啓成小学校の協力を得て，学校体験活動の啓発資料として「学校教育体験実践記録①」を作成し，今後学校体験活動先への理解推進に活用していくこととした．基礎体験活動連絡会議においては「1000時間・基礎体験だより」を配布し，基礎体験活動の実践や学生の活動の様子を広く啓発することもできた．また今年度の大きな改革として，新規申し込みの際の「10の確認項目」による審査を廃止し，令和８年度から「基礎体験活動ガイドライン」が運用できるよう準備を進めたことも取り上げておきたい．このガイドラインの運用により，全ての事業所に，活動申し込みの度に基礎体験活動を運営するにあたって配慮してほしい内容を確認してもらえるようになり，学生の安心・安全の確保に大きくつながるものと期待している．このような改善を積み重ねることで，大学・学生・各事業所の基礎体験活動に対する理解やつながりがより一層深まり，学生の学びがより充実していくことを期待したい．

【図５】には卒業生の平均体験時間数を示している．旧カリキュラムで卒業要件が1000時間となる学生である．今年度卒業生の平均体験時間数は約1129時間であり，昨年度の約1135時間を多少下回る数字となったものの，教員採用試験合格者80名の平均体験時間数は1166時間に及んでいる．基礎体験活動での積極的な学びの積み上げが，教師力の育成に寄与していることは今年度の結果からも推察される．

今後は，新カリキュラム対象の学生たちが進級していった際の基礎体験活動の時間数や参加種別の推移をしっかり把握しながら，学生の活動をサポートしていく必要があるだろう．参加種別に偏りが見られたり，早期に卒業要件を満たして活動が停滞したりする学生には，より魅力的な活動を提供していくことも求められるかもしれない．我々教育支援センターの教員は，学生一人一人の学びの過程をしっかり見取りながら，学生の学びの環境を十分に整え，教員に必要な社会性や豊かな人間性を育成できるよう引き続き支援していきたい．



【図５】令和７年度卒業生の平均体験時間数